

す

く

す

く

77号



東京都済生会中央病院附属乳児院 2021年度 第3号 2022. 1. 1 発行

東京都済生会中央病院附属乳児院 院長 小寺 政明

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、新乳児院棟へ移転し1年を迎えました。子どもたちの居室が増えたり、小規模グループの養育体制になったりと環境の変化が大きな年でした。中でも、私たちの念願であった乳児院内に厨房ができたことは、嬉しい変化でした。そして、変化したのは環境だけではありません。食事をするテーブルや椅子の位置はここで良いの？食器やスプーン、食事用エプロンはこれで大丈夫？食事を摂る時間はどうなの？と、私たちの食への意識も大きく変わりました。それは、厨房ができたことだけでなく、栄養士や調理士が同じ乳児院職員として近くにいるからこそその変化だと思います。それぞれの専門職が共に考え協力しながら、子どもたちにとって最善の養育を目指していきたいと思えます。

日頃より乳児院の活動にご理解とご支援をいただいている関係者の皆様には、改めて感謝申し上げます。

本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

看護師長代理 小泉 菜穂子

理 念

「済生の精神」に基づいた思いやりのある養育の提供を通じて社会に貢献します。
（「済生の精神」とは、分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉を差し伸べることです）

基 本 方 針

「子どもニーズ 子どもファースト」

私たちは、常に子どものことを第一に考え、子どもの目線に立ち、
子どもの気持ちの代弁者として実践し、一人ひとりの子どもの最善の利益を追求していきます。

1. 子どもが安心できる環境の中で、個性を尊重し、愛情を注いで養育します。
2. 愛着関係を大切に、情緒豊かな子どもに育てていきます。
3. 感動や成功体験を通し、子どもの自立心を養っていきます。
4. 子どもの成長の喜びを保護者と共有し、親子関係を大切にしながら養育します。
5. 乳児院職員として、向上心や探究心を持ち、人間性・専門性を高めていきます。



運動会

9月9日、運動会が行われました。いつも遊んでいるプレイルームが色とりどりの万国旗で飾られ、子どもたちは体操服と紅白帽子を身につけて入場しました。

元気いっぱい体操をし、最初の種目は玉入れです。床に広がるボールを夢中で追いかけて、籠へたくさん投げ入れていきます。終了の合図が鳴ると、カウントと共にボールが高く舞い、みんなでワクワクしながらその様子を見守りました。

最後はかけっこ。低月齢児は離れて待つ職員に向かって、ほふく前進で前へ前へ。とても愛らしく感動的な姿でした。高月齢児はスタートの構えも勇敢。一斉に疾走し、勢いよくゴールを切りました。会場に響き渡る拍手に、はにかみながらも誇らしげな表情がとても素敵でした。

保育士 樋口 麻友子



ピクニック

10月14日、ピクニックをしました。公園で滑り台やシャボン玉、ボール遊びを楽しんだ後、乳児院5階の屋上庭園で昼食を食べました。秋晴れで日差しが強かったため、レジャーシートの上に大きな日よけを張り、日よけの下に入るとまるでテントのようでちょっとしたキャンプ気分です。楽しみにしていたお弁当は、まん丸おにぎりにタコさんウインナー、卵焼き、アンパンマンポテトなど子どもたちの大好きな物ばかり。食べ過ぎじゃないかと心配になるくらい、みんなよく食べていました。子どもたちも職員も、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。このような時間をたくさん作っていきたいです。

保育士 小長谷 香利



お誕生日会



プルデンシャル生命様より
ケーキを頂きました！



お誕生日を迎えるお子さんは
毎月大きなケーキと一緒に記念撮影をします！



みんなでケーキを食べて
お祝いをします！

日常の様子

乳児室と幼児室(Aホーム・Bホーム)の子どもたちの日々のエピソードをお届けします。

乳児室



空気の冷たさを感じ始める季節になりましたが、ポカポカとした日中はお散歩に出かけます。落ち葉を拾い渡すとパリパリとちぎる感覚を楽しみ、子どもたちも季節の変わり目を感じています。

離乳食完了期のお友達もいて、最近ではつまんで食べるという動作を見せてくれるようになりました。褒められると嬉しそうに笑い、自分で食べられる喜びを感じています。



Aホーム

最近、1人で歩けるようになり、お散歩をより楽しんでいるAくん。公園の抵抗のある道に時々尻もちをつきながらも、すぐにまた立ち上がり大好きな鳩を追いかけることがマイブームです。ヘリコプターや車など乗り物の音にもよく気が付き、「あー！」と声を出して教えてくれます。



Bホーム

寒くなり、子ども達の鼻水を拭く機会も増えてきました。

ある日、Bくん「お鼻ふーんってかめるかな」と聞くと、自信满满に「うん！」とのお返事。「せーの」と言いながらティッシュを鼻にあてると、顔をくしゃくしゃにゆがめながら大きな声で「ふーん」と言ってくれました。まだ鼻をかむのは難しいようでしたが、一生懸命な姿がとても可愛らしかったです。



ナースコラム～子どもの皮膚とスキンケア～

子どもの皮膚は大人の約半分の薄さでデリケートです。そして、保湿成分（アミノ酸やセラミドなど）が少なく乾燥しやすい、皮脂の分泌量も少なくバリア機能も十分ではないという特徴があります。

皮膚が乾燥すると表面にある皮質がめくれてしまい、刺激となる異物が体内に入り込みやすくなります。ダニやハウスダスト、食べかすなどが入り込むと喘息やアトピー性皮膚炎、食物アレルギーを引き起こす原因になり、花粉が入り込むと花粉症を引き起こす原因になってしまいます。

アレルギーを予防する意味でも子どもの頃のスキンケアはとても大切です。冬はとくに乾燥しやすい季節のため、適切なスキンケアを行い気持ちよく過ごしましょう。

ポイント1. 皮膚を清潔に保ちましょう

泡立てた石鹸で優しく洗いしっかり洗い流します。

子どもの皮膚はデリケートなのでタオルでゴシゴシ洗うのは避けましょう。



ポイント2. しっかり保湿をしましょう

ベビーローションやクリームを皮膚がしっかり覆われるくらい塗りましょう。

少し多いと思うくらいが効果的です。保湿することで皮膚の表面が覆われ異物の侵入を防いでくれます。

看護師 尾島 いづみ

家庭支援員だより

新型コロナウイルス感染症が初めて日本で確認されてから、早くも2年が経ちました。皆様には日々、ご心配をおかけしていますが、おかげさまで、新乳児院で無事に2度目の新年を迎えることができました。日々、大人は感染対策に必死ですが、子ども達は変わることなく、元気に過ごしています。

2020年9月に引っ越した新しい乳児院では以前よりもたくさんの方との交流ができるよう、面会用の部屋が増えました。お家での生活を想定し、体験できる宿泊交流用の部屋もできました。お風呂や寝る時の様子を実際に見て、体験していただくことで安心してお家に帰ることができると思います。

1日も早く、新型コロナウイルスが落ち着き、皆様にお会いできる機会が増えることを願っています。

家庭支援専門相談員 樋口 雅子



調理の様子を真剣に見ています！

クッキング 体験



クレープのデコレーションに挑戦！

【0～3歳児の育児にお困りの方へ】当院では育児相談を平日9～16時に受け付けています。

詳しくは下記までご連絡ください。Tel 03-3451-8289(直通) 担当 小泉看護師長代理

【寄付金について】当院では子どもたちの養育環境整備のため寄付金を募っています。

詳しくは下記までご連絡ください。Tel 03-3451-8289(直通) 担当 事務 竹田

【編集後記】

朝晩の冷え込みが厳しくなってきました。冬の寒さに負けず子どもたちと元気に過ごしていきたいです。

「すくすく 第77号」2022. 1.1 発行
発行人/小寺 政明 編集委員/小泉 菜穂子
赤穂 真由美 宮野 由貴 栗野 桃子